

東洋炭素 コーポレート・プロフィール

1.	経営理念	P. 03
2.	企業概要	P. 04
3.	業績推移	P. 05
4.	高機能黒鉛製品とは	P. 06
5.	事業領域	P. 09
6.	製品・分野紹介	P. 10
7.	東洋炭素の強み	P. 11
8.	成長の方向性	P. 16

東洋炭素グループは、
C(カーボン)の可能性を追求し世界に貢献する。

経営方針

- お客様の満足度向上を最優先のテーマとし、最高水準の品質、納期、コスト、サービスを目指し、企業活動に取り組みます。
- Cの技術を通して、株主・社会から高く信頼され継続的に成長する未来型企業グループを目指します。
- 社員の自立性・創造性を尊重し、全員が目標を持ち、働き甲斐があり、公正な評価をされる職場環境を築きます。
- 法令及び社会規範遵守を基本に、社会的秩序を守り、誠実で公正な企業活動を通じて社会に貢献します。
- 人と炭素と自然との共存・調和を目指し、地球環境保全に貢献する企業活動を行います。

事業内容

高機能に特化した炭素製品メーカー

企業概要

設立	1947年7月
資本金	7,692百万円(2012年5月末現在)
本社所在地	大阪市北区梅田3-3-10 梅田ダイビル10F
代表者	代表取締役社長 野網 明

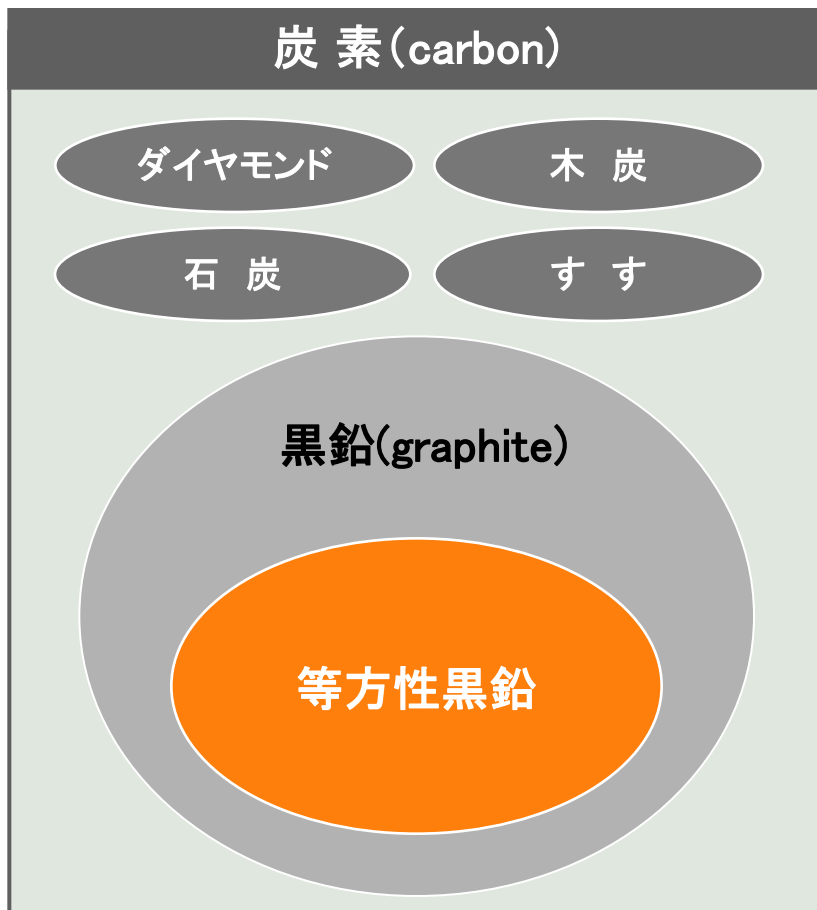


沿革

- 1947年 近藤カーボン工業設立／カーボンブラシの製造を開始
- 1974年 大型等方性高密度黒鉛の量産化工場を設置(大野原工場)
- 1985年 詫間工場設置／等方性高密度黒鉛の生産能力増強
- 1987年 米国法人TTA, Inc 設立
- 1988年 フランス法人 GRAPHITES TECHNOLOGIE ET INDUSTRIE S.A.設立
- 1994年 中国上海に上海東洋炭素有限公司設立
- 2006年 東京証券取引所市場第一部に株式を上場

3.業績推移



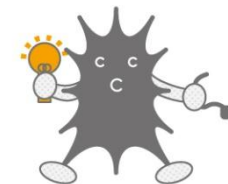


東洋炭素の主力は等方性黒鉛

炭素の特性



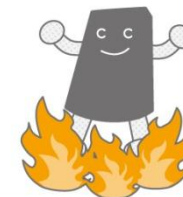
1 自己潤滑性がある



2 電気伝導性・熱伝導性が良い



3 耐薬品性がある



4 耐熱性がある



5 加工性がよい



6 軽量である

黒鉛の特性

- 熱伝導性及び電気伝導性に優れる
- 高温、薬品への耐性が高い
- 軽量で加工が容易
- 摩擦、摩耗が起こり難い



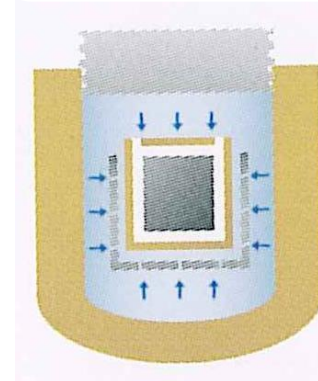
等方性黒鉛材料の特性

- 熱膨張性などの特性がすべての方向に均一
- 微粒子構造で高強度
- 材料の特性バラツキが非常に小さい



東洋炭素は、1974年に大型等方性黒鉛材料を量産化
現在も世界最大の生産量を誇るトップメーカー

静水圧成形法



異方性黒鉛



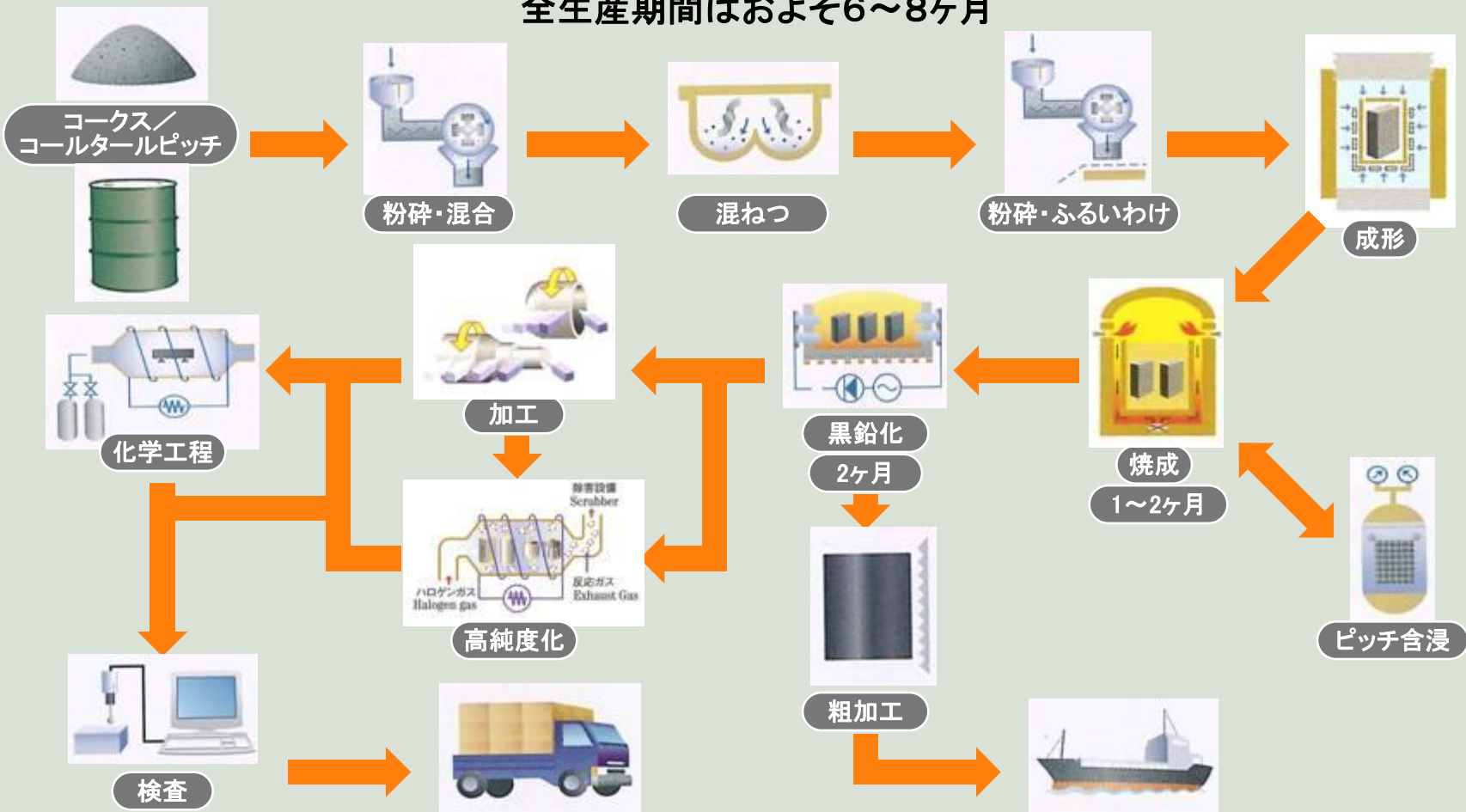
等方性黒鉛



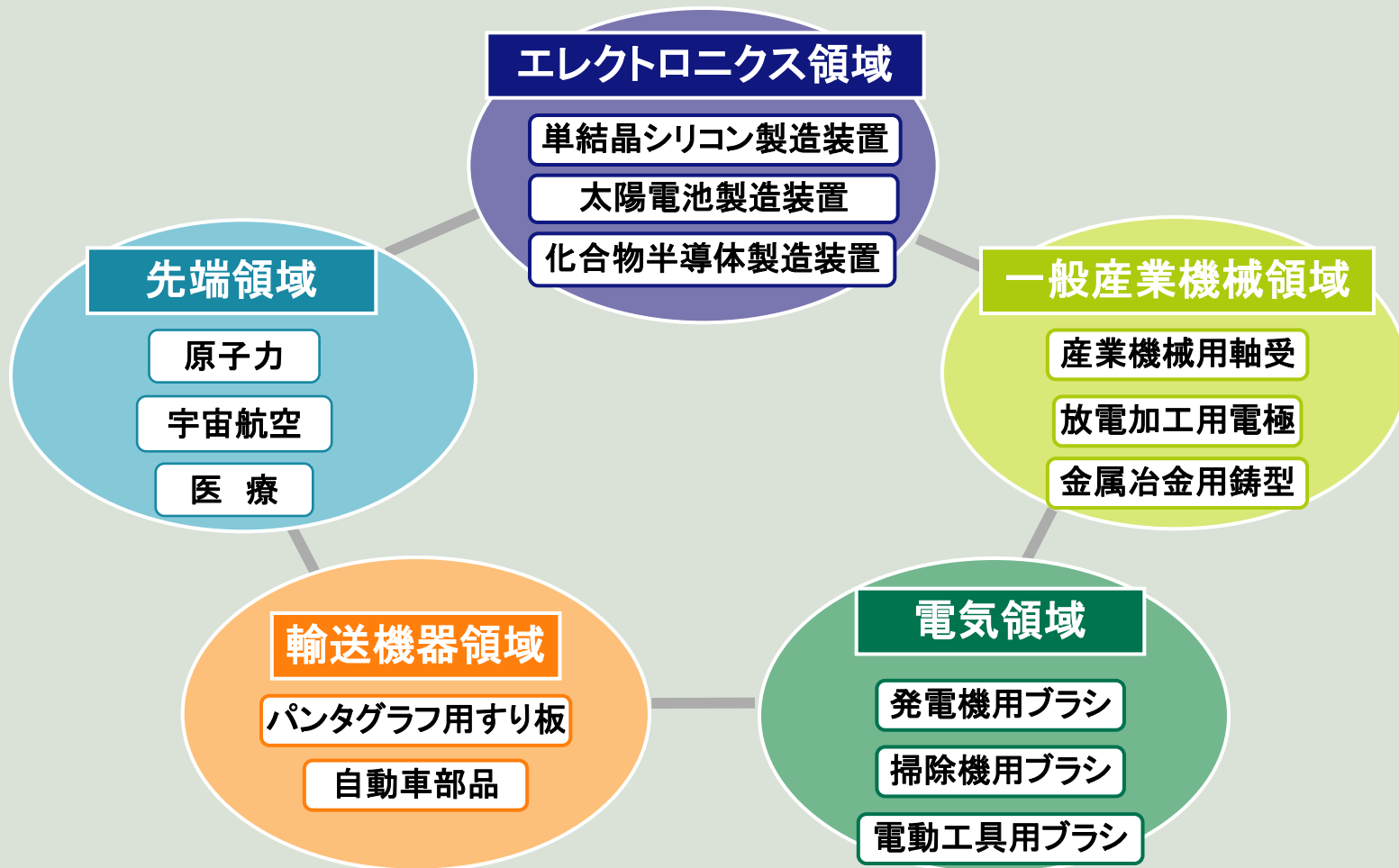
4. 高性能黒鉛製品とは ③ 等方性黒鉛の生産プロセス

等方性黒鉛の生産プロセス

全生産期間はおおよそ6~8ヶ月



当社製品のカバー領域



用途はさらに拡大中

特殊黒鉛製品

エレクトロニクス分野

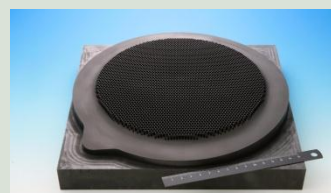


ヒーター



るつぼ

一般産業分野



放電加工用電極

その他



ガラス封着用治具



高温ガス炉用炉心材

一般カーボン製品

機械用カーボン分野



ベアリング



パンタグラフ用すり板

電気用カーボン分野



小型ブラシ



大型ブラシ

複合材その他製品



炭素繊維強化炭素複合材料
(C/Cコンポジット製品)

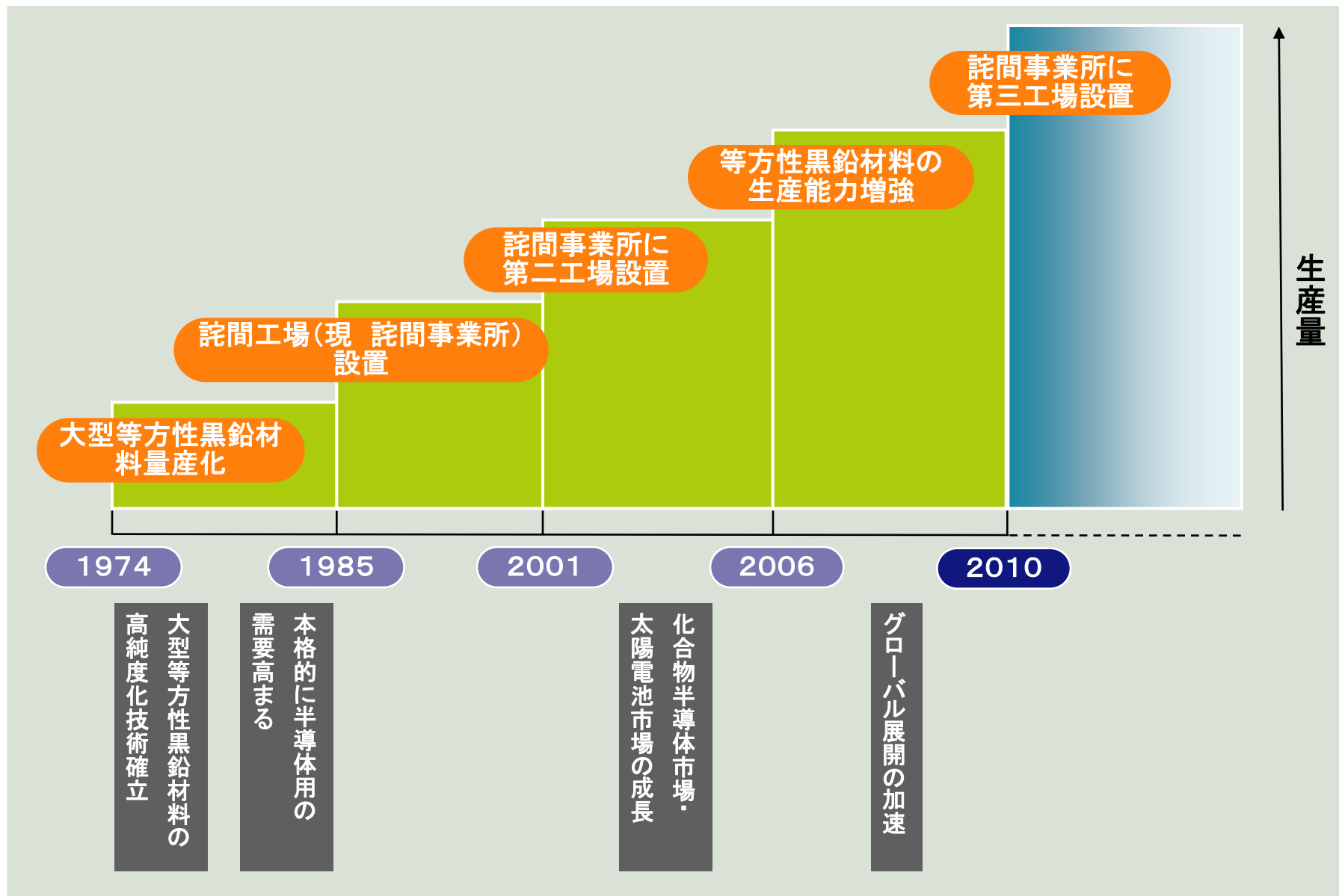


自動車ガスケット用黒鉛シート



パンケーキ型
サセプター

7. 東洋炭素の強み ① 等方性黒鉛のパイオニア



素材メーカーとしての強み

カーボン素材の製造は集約化

スケールメリットの追求

強いコスト競争力

安定した品質の製品を提供



加工メーカーとしての強み

加工工場は顧客密着

短納期の実現

顧客ニーズの吸収

迅速な開発体制

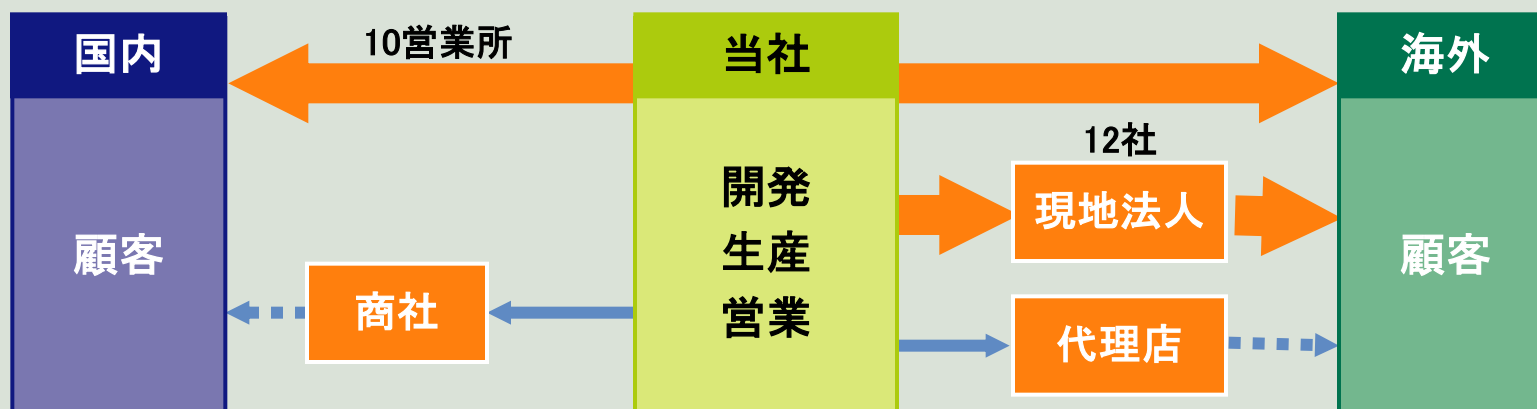


強固なビジネスモデルを実現

- 国内顧客向けは10ヶ所の営業拠点に100名規模の人員を配備
- 海外顧客向けには国内外の営業拠点に100名近くの人員を配備
- 顧客の具体的なウオントを把握

直販比率8割以上

販売ルート



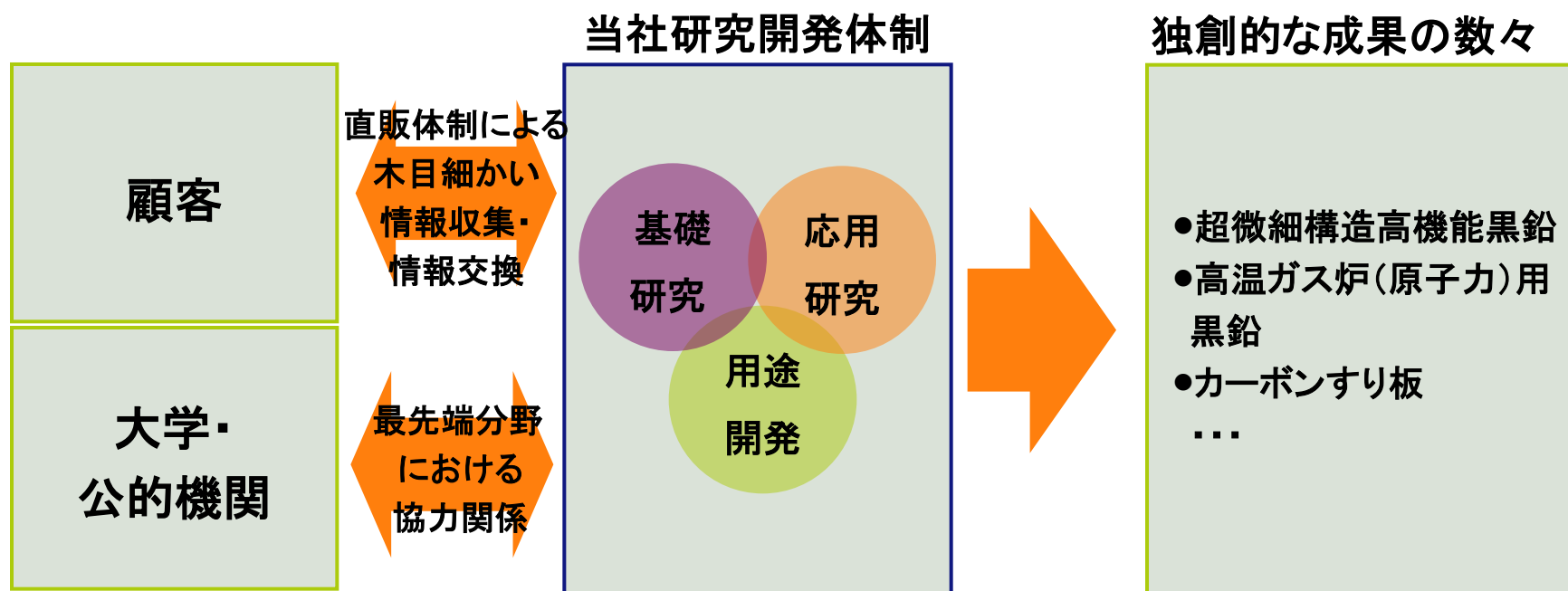
7. 東洋炭素の強み ④ グローバル展開

日本の素材工場を中心に、自社生産・営業拠点+代理店網 で全世界をカバー

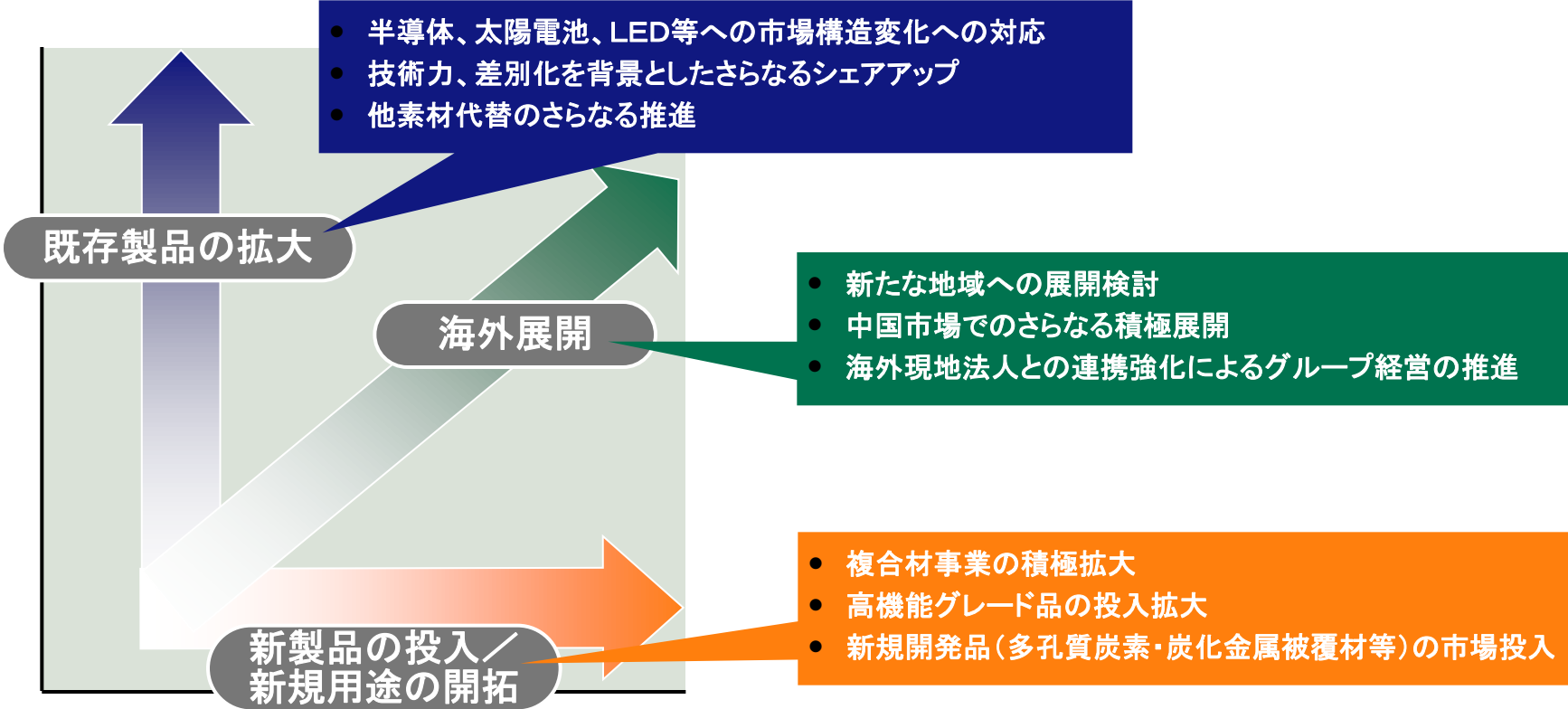
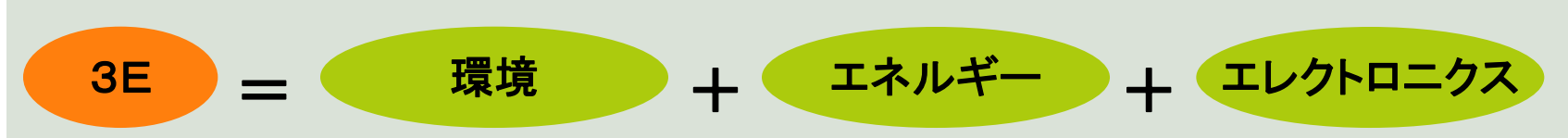


シーズ志向・ニーズ志向のいずれにも偏らない研究開発体制

- 当社は、総合開発センター(大阪市西淀川区)、生産技術センター(香川県観音寺市)を中心に、「基礎研究」「応用研究」「用途開発」の各領域に亘ったシーズ志向・ニーズ志向のいずれにも偏らないバランスの取れた研究開発体制をとっている。
- 大学・公的機関との連携や研究者の自由闊達な発想によるシーズから技術の萌芽を生むことと、直販体制で木目細かく掴んだニーズに対応することにより、業界をリードする数々の独創的な成果が生まれている。



成長のキーワード



TOYO TANSO

Inspiration for Innovation



<お問合せ先>

東洋炭素株式会社 広報・IR担当

TEL:06-6451-2114(代) FAX:06-6451-2186

E-mail: ir@toyotanso.co.jp

2012.08